

環境カウンセラー・環境教育インストラクターに 必要とされる ICT スキルの一考察 ～環境教育の対面教育・オンライン教育を基に～

庄司 一也
帝京平成大学

概要：環境カウンセラーや環境教育インストラクターは環境カウンセリングや環境教育の活動のために一定の ICT スキルを必要とする。ただしそれは必ずしも高度で専門的な技能を指すわけではない。また 2020 年新型コロナウイルス感染拡大によって遠隔教育に伴う ICT スキルの重要性が再確認された。本稿では筆者の対面・遠隔（オンライン）での環境教育の経験を基に環境カウンセラーや環境教育インストラクターにとって必要な ICT スキルを整理・考察し広く共有する。

キーワード：環境教育 新型コロナウイルス ICT スキル オンライン教育 コミュニケーション

1. はじめに

筆者が環境カウンセラー・環境教育インストラクター（2つの資格取得者を合わせて、以下「有資格者」とする）に登録し数年が経ち、主に環境教育を中心に活動を継続してきた。環境教育では投影資料や配布資料の作成だけでなく各所で基礎的な ICT スキルが必要となった。

2020 年の新型コロナウイルス感染拡大を機に、感染拡大前から現在までの筆者の環境教育の実践を振り返りつつ、有資格者にとって必要な ICT スキルを整理・考察し多くの有資格者間で共有する機会としたい。

2. 環境教育の実践と必要な ICT スキル

筆者は学校教育の経験を基に、杉並環境カウンセラー協議会等の主催する環境教育インストラクター資格取得セミナー等の講義（講義名：アクティブラーニングと環境教育）を担当してきた¹⁾。

(1) 新型コロナウイルス感染拡大前：対面教育

まず新型コロナウイルス感染拡大前の対面教育を報告する。教室等での講義であるため投影資料やワークシート等の作成のためにオフィスソフトのリテラシーが必須であった。ただしこれは基礎的なコンピュタリテラシーのみであり、よ

り大切なスキルにオンラインコミュニケーションスキルがある。これは講師依頼者やセミナー主催者との連絡や資料のやり取りだけを指すのではない。すなわち、メール等でのやり取りで「主催者は何を意図し、環境教育を通して何を伝えたいのかを理解し、それを踏まえてこちら側もテキストや電子資料・URL リンクを効果的に活用し、わかりやすく・内容はしっかりと伝えること」が大切になってくる。

さらにその時々で理解が困難なことがあってもオンラインコミュニケーションスキルがあれば「相手に何がわからないのかを正確に伝え、何を教えてほしいのかをわかりやすく伝えること」ができるはずである。これは表現力の問題ともいえるが、ただの日本語力（テキスト活用）のみならず、ICT の様々な機能を活用し、効果的なコミュニケーションをとることが重要である。

(2) コロナ禍：オンライン教育

本項では新型コロナウイルス感染拡大後、すなわち 2020 年以降多くの教育機関等で採用されたオンライン教育について考察する。

オンライン教育は「ライブ配信」と「オンデマンド配信」に大別される。まずはライブ配信であるがこれはリアルタイムで行う生配信型の教育・

学習であるため、教育者・学修者・その他運営スタッフ等が指定の時間に「オンライン上に集合」しなくてはならず、リアルタイムであるがゆえにいわゆる放送事故のようなものにも注意しなくてはならない。また運営・サポートスタッフによって技術的なサポートが受けられることもあるが、基礎的な WEB 会議システムの理解は必要になる。その他は WEB 会議システムの事前の動作確認を除けば基本的には対面教育時の注意点と同じである。

そしてライブ配信で必要なことは前項と同じくオンライン上のコミュニケーションである。特に傾聴やタイミング、マナー等が重要になる。すなわち時間帯を共有している中で、相手の話をさえぎらずしっかりと受け入れ、同時に自分の言葉を確実に伝え、さらには議論や意見交換を活性化させるような工夫も必要である。有資格者は経験や知見に基づき環境保全活動に対し助言を行う人材であるため「伝えること」はもちろん「好意的・肯定的に聞き入れること（聞く力）」も重要であり、それはオンライン環境でも変わりはない。

後者のオンデマンド配信においては、現在のオフィスソフトやオーサリングソフトであれば、基礎的なコンピュータリテラシーがあれば大部分は解決する。例えば PowerPoint だけで音声付きビデオを作成・編集することも可能である。

オンデマンド配信で筆者が注意を要するものとして表現力と著作権がある。表現力については、教材コンテンツや配布資料において、コンピュータ上の閲覧だけで理解が促進されるものをよく検討する必要がある。また便利なユビキタス環境であるからこそ表現やわかりやすさへの創意工夫が必要になる。例えば環境問題を写真を用いてわかりやすく解説したり、eco 検定のように小テストで理解度を確認したりドリルを用いて繰り返し学習することで理解の促進や定着を図るなどである。また著作権（上述の写真やテキスト引用の小テスト問題等）については改正著作権法第 35 条を含め、遵法行動に努めることである。以上を整理すると表 1 のようになる。

3. ICT スキル修得上の課題

環境分野の知識や環境保全活動の経験が豊富な有資格者がいる一方で、コンピュータや ICT に不慣れな者のスキル不足はこの業界の大きな課題である。筆者が提案したいのは、「スキルのある有資格者はそうでない者へのスキルアップに貢献すべき（教育者への支援およびその推進）」ということである。様々な有資格者がいるなかで今後はそれらの協調・協働が強く望まれる。

コロナ前 (対面)	基礎的なコンピュータリテラシー オンラインコミュニケーション
コロナ禍 (オンライン)	コロナ前に必要な ICT スキル +事前の十分な動作確認
①ライブ 配信	WEB 会議システムの基礎理解 オンラインコミュニケーション(特に 傾聴、タイミング、マナー、等)
②オンデマ ンド配信	ユビキタス環境で必要な表現力、 著作権法の理解(遵法精神)

表 1 有資格者に必要な ICT スキル

4. おわりに

以上、有資格者にとって必要な ICT スキルを考察したが、同時に大切なことは（有資格者が様々な経験や豊かな知識・技能を持っていても）「新しいことを謙虚に学び修得する態度」である。本稿では技術面の考察が主であったが、有資格者にとって最も必要なことは内面であることは言うまでもない。その点は別の機会に譲ることにする。

【註】

1) 筆者の環境教育の取組や研究業績は
URL : <https://researchmap.jp/shoji0715> (随時更新) を参照。

【参考文献】

1. 庄司一也「オンライン授業の設計・実践に関する一考察～従来の教育・学習と比較して～」関西ベンチャー学会九州研究部会・中部経済研究部会 合同発表会 発表資料 (2021年) pp.1-pp16.